

実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 福島県福島市杉妻町2番16号  
管理機関名 福島県教育委員会  
(代表の機関)  
代表者名 大沼 博文

1 管理機関

①管理機関 (市区町村・都道府県)

ふりがな	ふくしまけんしょうこうろうどうぶ
管理機関名	福島県商工労働部
代表者職名	商工労働部長
代表者氏名	小笠原 敦子

②管理機関 (産業界) ※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	みなみそうまるぼつとさんぎょうきょうぎかい
管理機関名	南相馬ロボット産業協議会
代表者職名	会長
代表者氏名	五十嵐 伸一

③管理機関 (学校設置者)

ふりがな	ふくしまけんきょういくいいんかい
管理機関名	福島県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者氏名	大沼 博文

2 指定校名

学校名 福島県立小高産業技術高等学校  
学校長名 金田 洋一郎

3 事業名 ふくしまの未来を創るテクノロジスト育成事業

4 事業概要

急速に変化する産業構造や仕事内容に、柔軟に対応できる資質・能力を身に付けたふくしまの未来を創るテクノロジストを育成する。そのため、企業・産業界と教育界が一体となって、最先端の職業人材育成システムを構築するための教育課程の編成・実施・改善及び学習プログラムを開発する。マイスター・ハイスクールCEOと産業実務家教員から指導・助言・支援等を受け、地元企業等との連携や福島ロボットテストフィールド等を活用して体系的な授業、実習を実践することにより、廃炉や災害に関するロボット技術、水素エネルギー等の再生可能エネルギー技術、AIやドローンを利用した制御技術、

土壌や水質等の分析技術、航空・宇宙産業に関する知識・技術、スマートシティを実現するための知識・技術を身に付ける。

マイスター・ハイスクールCEO及び産業実務家教員

役職	No	科名	氏名	会社名・職	勤務形態	事業において果たす役割	担当科目	時数
CEO	1		五十嵐 伸一	南相馬ロボット産業協議会 会長	特別非常勤 講師	学術・研究・行政機関や産業界と 学校との調整		
産業 実務家 教員	1	機械科	山崎 潤一	タケルソフトウェア 代表	特別非常勤 講師	ロボット製作における技術指導	実習	106
	2	機械科 電気科	成瀬 哲也	テクノアカデミー浜 職業能力開発短期大学校 ロボット・環境エネルギー システム学科 教務主任	特別非常勤 講師	EV製作とレース出場に関する 指導	課題研究	38
	3	電気科	長江 剛志	東北大学大学院 工学研究科 技術社会システム専攻 准教授	特別非常勤 講師	点在した風力発電機の発電量監視 システムの構築に関する指導 EVを活用した街づくり	課題研究	36
	4	電気科	鈴木 高宏	東北大学 未来科学技術 共同研究センター 特任教授	特別非常勤 講師	EV技術と次世代モビリティ（自 動運転車両利用）による街づくり の指導	課題研究	36
	5	電気科	佐藤 文博	東北学院大学 工学部 電気電子工学科 教授	特別非常勤 講師	ワイヤレス給電実験と成果物の さらなる発展へ向けた指導	課題研究	36
	6	産業革新科 電子制御 コース	高山 克男	高山電業株式会社 代表取締役	特別非常勤 講師	第2種電気工事技能試験等の資格 試験に対する指導	工業技術基礎	30
	7	産業革新科 環境化学 コース	志賀 敏文	大内新興化学工業株式会社 取締役 原町工場長	特別非常勤 講師	分析技術、環境調査技術、水質改 善に向けた取組についての指導	工業技術基礎 実習	30
	8	商業科	森山 貴士	一般社団法人オムスピ 代表理事	特別非常勤 講師	地域や企業課題の効果的な解決策 についての指導	プログラミング 情報処理	88

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用（□で囲むこと）

ア 学校設定教科・科目を開設している

イ 教育課程の特例の活用している

6 事業の実施期間

契約日～ 令和6年3月31日

7 令和5年度の実施計画

(1) 育成する人材像

『地域復興・発展の中核を担い、福島イノベーション・コースト構想に寄与する職業人材の育成』

本県においては、甚大な被害を受けた東日本大震災から12年が経過するものの、原発事故からの復興・創生は未だ道半ばである。現在、様々な分野におけるイノベーションに繋がる取組が行われているところであり、福島ロボットテストフィールド等と連携し、福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成・確保により福島の復興・創生、発展に繋がっていくと考える。

## (2) 身に付けさせたい資質・能力

地域復興・創生の中核を担う人材を育成するために、次に掲げる4つの資質・能力『4C』を身に付けさせる。

- Challenge：集積される新産業の高度な知識や技術習得に挑戦する力
- Create：地域の実情を踏まえ未来を創造する力
- Continue：変革に対応し目標達成まで諦めることなく継続する力
- Cooperate：人間性を磨き他者と協働する力

『4C』の力を身に付けさせるために、令和3年度入学生を基幹学年と位置づける。また、体系的な授業・実習の実践において、産業界等の施設・設備を共同利用し、より実践的な資質・能力の育成を図る。

1年目：「基盤・基礎力」の育成

⇒2年目以降に繋げるための「土台づくりのプログラム」を作成する。

2年目：「発展的応用力」の育成

⇒1年目で育成した「基盤・基礎力」を土台として、発展的な応用力の育成を図る。

3年目：「総括的実践力」の育成

⇒それまでのプログラムを検証・改善し、以後5年後10年後を見据え、計画的にプログラムを実践する。

## (3) 学習プログラムの開発

「4つのC」の資質・能力の育成にあたっては、これから必要とされる次世代産業に関する6つの分野について、各科の専門性を活かし、知識・技術の向上・深化につなげるための学習プログラムを行う。

## &lt;機械科&gt;

## 【課題解決型学習】（継続的实施）

カテゴリー	ロボット技術（廃炉・災害）	総括的実践力
目 標	【Challenge：挑戦力】【Continue：継続力】 今後数十年にわたる廃炉事業に関わる無人作業技術、デバイス、センシング技術、少人数大規模に関わる無人農業機械など、この地における産業を担う資質能力を身につけた人材を育成する。	
取組内容	実施月	令和5年4月～
	対 象	3年
	科 目	課題研究
	単 元	制御実習
	講 師	タケルソフトウェア 山崎潤一 氏 南相馬ロボット産業協議会
内 容	ロボット製作やプログラミングをとおして、ソフトウェア・ハードウェアに関する学習を行い、廃炉作業や農業用ロボットなどに応用できるロボット技術を習得する。 ○ 地域農業の課題を解決する農業用ロボットを製作する。	

## 【課題解決型学習】（継続的実施）

カテゴリー	航空・宇宙産業	発展的応用力
目 標	【Challenge：挑戦力】 各種の金属の機械的性質を理解し、航空・宇宙関連産業に活用できる新しい素材の開発に挑戦できる人材を育成する。	
取組内容	実施月	令和5年4月～
	対 象	2年
	科 目	機械工作・実習
	単 元	材料の機械的性質
	講 師	テクノアカデミー浜
内 容	① 航空関連産業に使用される金属材料について学習する。 ② 引張試験等の材料試験により、材料の機械的性質について考察し、新素材開発の可能性についての研究を行う。	

## 【課題解決型学習】（継続的実施）

## 【機械科と電気科の連携企画】

カテゴリー	再生可能エネルギー（水素・太陽光・風力）	総括的実践力
目 標	【Create：創造力】【Cooperate：協働力】 再生可能エネルギーについて学び、地域におけるエネルギー産業についての理解を深め、さまざまなエネルギー形態を適切に活用できる知識・技術を身に付ける。	
取組内容	実施月	令和5年4月～
	対 象	3年
	科 目	課題研究
	単 元	調査、研究、実験
	講 師	東北大学 鈴木高宏 氏 テクノアカデミー浜 成瀬哲也 氏 総合研究所福島再生可能エネルギー研究所
内 容	① 燃料電池等を活用した実験をとおして再生可能エネルギー技術について学習するとともに協働する力を養う。 ② 電気自動車、燃料電池車の製作をとおして、その仕組みや先進的な技術について学習する。 ○ 昨年度製作した電気自動車の改良に努め、レース大会での上位進出を目指す。 ○ 電気自動車製作のノウハウを活かし、太陽光や燃料電池で走行する自動車を製作する。	

## &lt;電気科&gt;

## 【課題解決型学習】（継続的実施）

カテゴリー	再生可能エネルギー（水素・太陽光・風力）	総括的実践力
目 標	【Challenge：挑戦力】 再生可能エネルギーについて学び、地域におけるエネルギー産業についての理解を深め、さまざまなエネルギー形態を適切に活用できる知識を身に付ける。	
取組内容	実施月	令和5年6月～
	対 象	3年
	科 目	実習、課題研究
	単 元	調査、研究、実験
	講 師	東北学院大学 佐藤文博 氏
内 容	① ワイヤレスエネルギー伝送技術について学習する。 ② 最新施設の見学等をとおして、ワイヤレスエネルギー伝送技術の応用について学習する。	

	③ ワイヤレスエネルギー伝送技術を用いてもものづくりやデータ分析に取り組む。 ○ 昨年度、電磁誘導作用による無接点給電（LEDの点灯）の実験を行い、給電に成功したことから、移動中の給電が可能な試作型次世代モビリティを製作し、実用化に向けて提案を行う。
--	--

【課題解決型学習】（継続的实施） 【機械科と電気科の連携企画】

カテゴリー	再生可能エネルギー（水素・太陽光・風力）	総括的実践力
目 標	<b>【Create：創造力】【Cooperate：協働力】</b> <b>【Contribute：貢献力】</b> ① 再生可能エネルギーについて学び、地域におけるエネルギー産業についての理解を深め、様々なエネルギー形態を適切に活用できる知識を身に付ける。 ② 脱炭素社会、自動車のEV化を見据えた次世代産業のEVならびに燃料電池車の学習・製作を通して知識と技術の向上を図る。 ③ 浜通り地域から参加チームを募り、EVレースを開催する。	
取組内容	実施月	令和5年6月～
	対 象	3年
	科 目	実習、課題研究
	単 元	調査、研究、実験
	講 師	CQ出版 野村英樹 氏 東北大学 鈴木高宏 氏 テクノアカデミー浜 成瀬哲也 氏
内 容	① 機械科と連携し、共同で電気自動車（ビークル）を製作し、製作する過程を通して協働する力を養う。 ② 電気自動車、EVミニカートレース、ブラシレスモータ、速度特性実験、チューニングについて学習する。 ○ 電気自動車を製作してCQEVミニカートレースへ出場し、上位進出を目指す。 ○ 浜通り地域において、車体の実走するEVレースを企画・実施し、地域の方々に観覧していただくことで、相双地区を本県において電気自動車の研究や製作を牽引する地域として盛り上げる。	

【課題解決型学習】（継続的实施）

カテゴリー	制御技術（AI・ドローン）	総括的実践力
目 標	<b>【Challenge：挑戦力】</b> マイコンカーラリー・カメラクラスマシンの製作を通して、画像認識技術、制御技術を習得する。	
取組内容	実施月	令和5年5月～
	対 象	3年
	科 目	課題研究
	単 元	調査、研究、実験
	講 師	南相馬ロボット産業協議会
内 容	① マイコンカーラリー・カメラクラスマシンの製作を通して、画像認識カメラやモータ制御、走行ライン制御についての学習をする。 ② サンプルプログラムを改良し、前方の走行ラインを認識して早めに予測できるプログラミング技術を習得する。 ○ 3年連続でのジャパンマイコンカーラリー全国大会出場と上位進出を目指す。	

## 【課題解決型学習】（継続的実施） 【産業革新科（電子制御コース）と電気科の連携企画】

カテゴリー	ロボット技術（廃炉・災害）	総括的実践力
目 標	<b>【Continue：継続力】</b> ① 技能検定3級電気機器組立て（シーケンス）の学習をとおして、PLC制御の知識技術を習得し、地域産業に貢献できる人材を育成する。 ② FAの基本形の学習を通して、産業用ロボットに関連する技術を習得する。	
取組内容	実施月	令和5年6月～
	対 象	3年
	科 目	実習
	単 元	調査、研究、実験
	講 師	*ものづくりマイスター制度を活用
内 容	<b>【PLC制御についての学習】</b> ① ラダープログラムについて学習する。 ② シーケンサと練習基板を用いて課題の解決を図る。 ③ 技能検定試験3級試験に挑戦する。 <b>【FAの基本形についての学習】</b> ① ロボットの手動操作技術を習得する。 ② プログラムによる産業用ロボットの操作技術を習得する。 ○ 産業革新科（電子制御コース）と連携により、南相馬市に由来したエンターテインメント機器の製作をとおして協働する力を養う。	

## &lt;産業革新科（環境化学コース）&gt;

## 【体験・講義】

カテゴリー	分析技術（水・空気・土）	基礎・基盤
目 標	<b>【Create：創造力】</b> 化学実験及び分析技術の基本操作を習得する。	
取組内容	実施月	令和5年5月～
	対 象	1年、2年
	科 目	工業技術基礎、実習
	単 元	実験
	講 師	日本原子力研究開発機構 研究員 福島ロボットテストフィールド
内 容	① 基礎的・応用的な実験器具の取扱い、試薬、薬品の調整方法について学習し、化学実験を行う。 ② 放射線測定の基本、分析技術の基本を学習する。地球環境について外部講師を活用し、地球規模の環境問題と地域の環境問題の関連性を考える。 ③ 危険物取扱者乙種第4類の取得を目指す。	

## 【課題解決型学習】（継続的実施）

カテゴリー	分析技術（水・空気・土）	発展的応用力
目 標	<b>【Create：創造力】 【Continue：継続力】</b> 応用的な化学実験及び分析技術を習得する。	
取組内容	実施月	令和5年5月～
	対 象	2年
	科 目	実習
	単 元	実験
	講 師	大内新興化学工業株式会社 志賀敏文 氏

		福島ロボットテストフィールド
	内 容	① 応用的な実験器具の取扱い、試薬、薬品の調整方法について学習し、化学実験を行う。 ② 中和滴定実験、機器分析実験（ガスクロマトグラフ分析、高速液体クロマトグラフ分析）を行う。

## 【課題解決型学習】（継続的实施）

カテゴリー	分析技術（水・空気・土）	総括的実践力
目 標	【Continue：継続力】【Cooperate：協働力】 南相馬市及び周辺市町村の環境調査（水、空気、土、放射線）によって課題を発見し、実践的な分析技術を習得し、課題解決に取り組む主体的な態度を育成する。	
取組内容	実施月	令和5年5月～
	対 象	3年
	科 目	実習・課題研究
	単 元	調査、研究、実験
	講 師	南相馬市水道局 福島ロボットテストフィールド 自治体、地域企業等
内 容	① 実践的な実験器具の取扱い、試薬、薬品の調整方法について学習し、化学実験を行う。 ② 南相馬市及び周辺市町村の環境調査（水、空気、土、放射線）を行い、応用的な機器分析実験（原子吸光分析、イオンクロマトグラフ分析、ガスクロマトグラフ質量分析）を行う。 ○ 環境調査結果をもとに、水質改善が必要な場所の水をサンプリングし、改善に向けた取組を行う。	

## &lt;産業革新科（電子制御コース）&gt;

## 【体験・講義】

カテゴリー	制御技術（AI・ドローン）	発展的応用力
目 標	【Challenge：挑戦力】 相双地域に集積される新産業（ドローン技術）の分野の学習に取り組み、挑戦する力を身に付ける。	
取組内容	実施月	令和5年9月
	対 象	2年、3年
	科 目	実習、課題研究
	単 元	コンピュータ制御の基礎
	講 師	東日本計算センター イームズロボティクス株式会社
内 容	① Python によるプログラミングを学習し、ドローンの操作技術に関する知識・技術を習得する。 ② ドローンの編隊飛行を行うためのプログラムの作成をとおして、プログラミング技術の向上を図る。	

## 【課題解決型学習】（継続的实施） 【産業革新科（電子制御コース）と電気科の連携企画】

カテゴリー	ロボット技術（廃炉・災害）	総括的実践力
目 標	【Continue：継続力】 ① 電気工事士や技能検定3級電気機器組立て（シーケンス）の学習をとおして、PLC制御の知識、技術を習得し、地域産業に貢献できる人材を育成する。 ② FAの基本形の学習をとおして、産業用ロボットに関連する技術を習	

	得する。	
取組内容	実施月	令和5年5月～
	対象	2年、3年
	科目	実習、課題解決
	単元	調査、研究、実験
	講師	高山電業株式会社 高山克男 氏 *ものづくりマイスター制度を活用
	内容	【PLC制御についての学習】 ① ラダープログラムの学習内容を応用して、電気科との連携により南相馬市に由来したエンターテインメント機器の製作をとおして協働する力を養う。 ② 電気工事士、技能検定等の国家資格を取得する。 【FAの基本形についての学習】 ① センサを活用し、ロボットの応用的な活用ができる技術を習得する。 ② プログラムによる産業用ロボットの操作技術を習得する。

【課題解決型学習】（継続的实施）

カテゴリー	制御技術（AI・ドローン）	発展的応用力
目標	【Challenge:挑戦力】【Continue:継続力】 相双地域に集積される新産業（AI技術）の分野の学習に取り組み、変革に対応し、継続的に挑戦する力を身に付ける。	
取組内容	実施月	令和5年5月～
	対象	3年
	科目	課題研究
	単元	調査、研究、実験
	講師	東日本計算センター
	内容	【AI学習プログラム】 ① AI技術に関するプログラムについて学習する。 ② AI技術により、画像認識で動作するアームロボットの操作プログラムを作成する。

【課題解決型学習】（継続的实施）

カテゴリー	ロボット技術（廃炉・災害）	総括的実践力
目標	【Challenge:挑戦力】【Continue:継続力】 地域の実情を理解し廃炉や災害に役立つロボット等を製作する学習を通して、ロボットに関する実践的な知識・技術を習得する。	
取組内容	実施月	令和5年5月～
	対象	3年
	科目	課題研究
	単元	調査、研究、実験
	講師	タケルソフトウェア 山崎潤一 氏 株式会社栄製作所 福島ロボットテストフィールド
	内容	① センサとの組み合わせにより複雑な動作をするロボットの制御技術を習得する。 ② 工業他科との連携により、センサとの組み合わせによって遠隔制御を行えるロボットを製作する。

### ＜産業革新科 ICTコース＞

【課題解決型学習】（継続的実施）

カテゴリー	スマートシティ（マーケティングテクノロジー・観光資源）	総括的実践力
目 標	【Continue：継続力】【Cooperate：協働力】 地域課題の解決を目標として、継続して地域創生に取り組むための技術力や思考力を育成するための学習プログラムの開発を行う。	
取組内容	実施月	令和5年4月～
	対 象	産業革新科（ICTコース）3年
	科 目	課題研究等
	単 元	調査、研究、実験
	講 師	一般社団法人オムスビ 森山貴士 氏
内 容	① ソーシャルメディア（SNS）やICT技術を効果的に活用し、地域が抱える問題について解決策を発見し、課題解決に向けた実践的な学習活動を南相馬市や地元企業等と連携しながら検討する。 ② 前年度の課題を検証し、PDCAサイクルを繰り返すことでより効果的な解決策を考案・実行していく。 ○ 地域や企業課題の効果的な解決策について、地域において発表を行う。	

### ＜産業革新科 経済・金融コース＞

【課題解決型学習】（継続的実施）

カテゴリー	スマートシティ （マーケティングテクノロジー・観光資源）	総括的実践力
目 標	【Challenge：挑戦力】【Create：創造力】 地域産業の活性化につながるための「地域通貨」の導入・運用についての学習プログラムの開発を行う。	
取組内容	実施月	令和5年4月～
	対 象	産業革新科（経済・金融コース）3年
	科 目	課題研究等
	単 元	調査、研究、実験
	講 師	南相馬市及び関係自治体 南相馬市商工会
内 容	① 地域通貨を導入している自治体と連携した市場調査・分析の結果をもとに相双地域に効果的な地域通貨のアイデアを考案する。 ② 考案した地域通貨について、校内における試験運用を目指す。 ③ 南相馬市における地域通貨導入の可能性について、行政機関等に報告する。	

### ＜流通ビジネス科＞

【課題解決型学習】（継続的実施）

カテゴリー	スマートシティ （マーケティングテクノロジー・観光資源）	総括的実践力
目 標	【Create：創造力】【Cooperate：協働力】【Contribute：貢献力】 地域の観光資源を有効活用し、南相馬地域のアンバサダーを育成して、地域の復興・創生に貢献するための学習プログラムの開発を行う。	
取組内容	実施月	令和5年4月～

	対 象	流通ビジネス科 3 年
	科 目	課題研究等
	単 元	調査、研究、実験
	講 師	南相馬市役所経済部参事観光政策担当 佐々木康之 氏 一般社団法人 南相馬観光協会 南相馬市立博物館 一般社団法人オムスビ 森山貴士 氏
	内 容	① 南相馬市・観光協会・博物館等と連携し、地域の歴史や復興の足跡を探求して、観光資源としての価値を理解し創造したうえで、地域の情報を発信する観光プロモーションを立案し実践演習を行う。 ② ツアーガイド兼語り部の育成をとおして、郷土愛と地域復興・創生に貢献する態度や表現力を育成する。 ③ グローバル化を見据え、英語を交えたガイドができる南相馬地域のアンバサダーの育成を目指す。

＜商業科共通＞

【継続的学習】

カテゴリー	スマートシティ (マーケティングテクノロジー・観光資源)	総括的実践力
目 標	【Challenge: 挑戦力】 【Create: 創造力】 地域創生につなげるために、ICT技術に関する知識・技術を習得し、地域の魅力・情報発信を効果的に行うための実践学習プログラムの開発を行う。	
取組内容	実施月	令和5年4月～
	対 象	産業革新科 (ICTコース/経済・金融コース) ・流通ビジネス科3年
	科 目	課題研究等
	単 元	調査、研究、実験
	講 師	南相馬市 一般社団法人オムスビ 森山貴士 氏
内 容	① コンテンツを作成する学習をとおして、ふるさと創生に向けて継続的に取り組むことで、情報活用能力、発信力を育成する。 ② ソーシャルメディア (SNS) やWeb技術を活用した地域・学校紹介コンテンツを作成する。 ③ コンテンツを世界に発信できるよう、英語版の作成に挑戦する。	

＜商工連携企画＞

【課題解決型学習】 【見学・講義】

カテゴリー	スマートシティ (マーケティングテクノロジー・観光資源)	総括的実践力
目 標	【Contribute: 貢献力】 【Challenge: 挑戦力】 【Create: 創造力】 【Continue: 継続力】 【Cooperate: 協働力】 震災からの地域再興を目的として、南相馬市の10年後に向けた街づくりを担う人材を育成する。 工業科で学習した内容を街づくり (観光や産業) に活かすための取組について、商業科との協働により、課題解決を図りながら進めていく。	

取組内容	実施月	令和5年5月～
	対象	商業・工業科3年
	科目	実習等
	単元	身近な地域のビジネス、調査、研究、実験
	講師	東北大学 長江剛志 氏
	内容	① 校内で地域の再興に必要な地域課題をまとめる。 ② 地域課題を基に街づくりに必要な施設や産業をまとめる。 ③ 工業科で学習した内容を街づくりに活かすためのグループワークを実施する。 ④ グループワークによって再興案を計画し、P D C Aサイクルを回しながら実施する（計画（P）の内容によって、実行（D）がシミュレーションとなる場合もある）。

<添付資料>

- ・令和5年度教育課程表

## 8 事業実施体制

意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
金田洋一郎	福島県立小高産業技術高等学校 校長
高橋 隆行	国立大学法人福島大学共生システム理工学類 物理・システム工学コース 教授
屋代 眞	公立大学法人会津大学 復興支援センター 特任教授
高橋 隆助	原町商工会議所 会頭
木村 浩之	株式会社ゆめサポート南相馬 取締役所長
土井 義人	南相馬市役所 経済部理事
高橋 和司	福島県商工労働部 再生可能エネルギー産業推進監兼次長
丹野 純一	福島県教育庁 教育次長

事業実行機関の構成（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
五十嵐 伸一	マイスター・ハイスクールCEO 南相馬ロボット産業協議会 会長
山崎 潤一	産業実務家教員 タケルソフトウェア 代表
成瀬 哲也	産業実務家教員 福島県立テクノアカデミー浜職業能力開発短期大学校 ロボット・環境エネルギーシステム学科教務主任
高山 克男	産業実務家教員 高山電業株式会社 代表取締役
志賀 敏文	産業実務家教員 大内新興化学工業株式会社 取締役 原町工場長
長江 剛志	産業実務家教員 東北大学大学院工学研究科技術社会システム専攻 准教授
鈴木 高宏	産業実務家教員 東北大学未来科学技術共同研究センター 特任教授
佐藤 文博	産業実務家教員 東北学院大学工学部電気電子工学科 教授

森山 貴士	産業実務家教員 一般社団法人オムスビ 代表理事
金田 洋一郎	福島県立小高産業技術高等学校 校長
山内 浩	福島県立小高産業技術高等学校 副校長
阿部 光	福島県立小高産業技術高等学校 教頭 (工業)
円谷 和久	福島県立小高産業技術高等学校 教頭 (商業)
佐藤 隆志	福島県立小高産業技術高等学校 教諭 (機械科)
櫛田 古瀬	福島県立小高産業技術高等学校 教諭 (電気科)
猪狩 俊夫	福島県立小高産業技術高等学校 教諭 (産業革新科環境化学コース)
齋藤 利明	福島県立小高産業技術高等学校 教諭 (産業革新科電子制御コース)
志賀 広美	福島県立小高産業技術高等学校 教諭 (流通ビジネス科)
沼 匠	福島県立小高産業技術高等学校 教諭 (産業革新科)
佐藤 里美	福島県立小高産業技術高等学校 教諭 (総務部主任)
片山 龍	福島県立小高産業技術高等学校 教諭 (教務部主任)

## 9 課題項目別実施期間

業務項目	実施期間 (令和5年4月1日 ~令和6年3月31日)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ロボット技術												
再生可能エネルギー												
制御技術												
分析技術												
航空・宇宙産業												
スマートシティ												
運営委員会		◎								◎		
事業推進委員会		◎		◎		◎		◎		◎		

## 10 知的財産権の帰属

※いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意すること。

- ( ) 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。  
 (○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

11 再委託の有無

再委託業務の有無 有 ・  無

12 所要経費

別添のとおり

※課税・免税事業者： 課税事業者 ・  免税事業者 (□で囲むこと)